



今月は、先の46号に引き続き、在宅介護における口腔ケアの成功例をご紹介します。
執筆は46号に引き続き、マロニエ医療福祉専門学校で、介護職の育成に尽力されている
渡辺 智子先生にお願い致しました。

……………「臭いが消えた!」のエピソードより～スポンジブラシが家族の絆を回復……………

行政よりアウトリーチ(居宅の訪問指導)をしたときのエピソードです。

看護師より、あるクライアントが同居の家族から嫌われてしまっている、との相談でした。

そのクライアントは最近になって“におい”がひどくなり、特にお孫さんは、臭いからとそばにも寄りなくなってしまったそうです。ご本人が可哀想だとの思いから、家族は頻繁に入浴させたり、着衣もすべて一度着るごとに洗濯したり、とにかく必死に保清に努めましたが、やっぱり臭い…。これは口かもしれない、と看護師も家族も思うようになったとのことでした。

ということで看護師と同伴で訪問しました。お嫁さんのお話では、以前は家族と一緒にわいわいがやがやと食事を共にしていましたが、「おばあちゃん、臭い!!」とお孫さんがまず離れていってしまい、今では家族がばらばらに食事をしているとのこと。そして看護師もお嫁さんも、代わる代わるクライアントの体中を嗅ぎまわり、髪じゃないんだよね…どこだろ…と、まるで犬?!という光景でした。

お口がにおうときは、たいがい室内に入った瞬間にわかるものですが、このときは正直私にも“におい”は感じられません。小奇麗にされておられるクライアントは、にこにこ笑顔で口数の少ない80歳代の女性でした。

一通りお話を聴きご希望を伺うと、お嫁さんは『以前はお孫さんも優しいおばあちゃんの手を甘え、一緒に何かをしていたのが全くなくなりました。何とか元のように戻って欲しい!』と必死に訴えられます。

歯科衛生士が訪問したのですから専門的な口腔ケアは行なってみるものの、“におい”が無くなるかどうかは判らないのご了解を得たうえで、クライアントの口腔内を診せていただきました。全体的に機能は悪くありません。歯は家族が手伝って磨いており、歯肉の腫れもみられませんでした。口腔内はやや乾いており、舌苔が発生していましたが、この舌苔はよく見かける付着状況でした。

そこでまずは「とても頑張っておられますね、お食事もよく食べられることでしょう」と日頃のケアが行き届いていることを労い、そして確認の意味で、本人に合ったブラッシングの方法を説明しました。さらに、舌のケアはされたことがないので、舌を傷つけないようにスポンジブラシの使用をお奨めし、実際にケアを行いました。

スポンジブラシに水を含ませて軽く絞り、奥舌から先端のほうへ一方通行で軽くこすります。コップですすいで軽く絞り、また奥から、と数回繰り返しました。コップの水は真っ白です。ご本人も家族も「わぁ～汚れているねえ…」とおっしゃっていましたが、私は「みなさんこんなものですよ、もっと汚れている方もいますよ」とお答えしました。そして一日のブラッシング回数ではできる範囲で、それと1日1回は舌ケアを取り入れてみたら如何でしょう、とアドバイスをさせていただきました。

その後、再訪問した看護師が声はずませてこう報告してくれました。「におい、消えたんだって!!お孫さん、膝に甘えて遊ぶようになったって。また、みんなでいっしょにご飯食べるようになったそうよ!とても感謝されちゃった!渡辺さんにくれぐれも宜しくって。」いつから変化がでたかを聞くと、あの訪問の直後から嘘のようににおいが消えたそうです。正直、私も驚きましたが、「良かった!いつまでもみんなで一緒においしい食事を摂ってもらいたいね。」とお答えしました。

口腔ケアは難しい事ではありません。ちょっとした工夫で安心・安楽に取り組めます。歯科専門職と連携し、継続的に毎日行い習慣化しましょう。

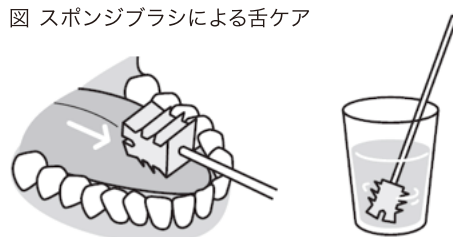


図 スポンジブラシによる舌ケア

